

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
【いきる】 【かかわる】	④【夢や希望の大切さ】夢や希望をもつことは、生きる価値を見出すことであり、つらく厳しい状況を乗り越えられることにつながることを実感する。 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】震災津波で被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全に生き生きしたまちづくりにかかわる。	総合的な学習の時間 (1学年)

【題材】 郷土から学ぶ～地域を知る～

【対象】 一戸町立一戸中学校 第1学年62名(男子33名、女子29名)

【実践の概要】

本校では、今年度、1学年総合的な学習の時間において、「地域を知る」をテーマに、私たちの郷土岩手県や一戸町について調べ、さらに理解を深めていくという目的で進めてきた。その第1弾として、「岩手県の今を知る」という、さらなるテーマを設け、東日本大震災の被災地の被害状況と復興の現状について、現地を訪れ、調べ学習を行った。「宮古市観光協会学ぶ防災係」のスタッフの皆様のご協力のもと、田老地区の被害状況や住民の方々の当日の様子などを見て、聞いて、報道されていること以上の事を知り、感じる事ができた。その、見て、聞いて、感じてきたことを、生徒個々に個人新聞にまとめ、新聞集を作成し各家庭に配布した。

【実践の詳細】～校外学習～

●期 日 平成25年7月2日(火)

●研修場所 宮古市観光協会主催「被災地教育学習旅行」に基づき研修を行う。

- ・宮古市田老防潮堤及び「たろう観光ホテル」での見学・研修
- ・田老地区避難経路体験ウォーク
- ・学ぶ防災のアフターワーク

●学習計画

- 第1次 校外学習オリエンテーションと事前学習
- 第2次 大震災体験のアンケート
学習のまとめの見通しについて
- 第3次 集団行動について(しおり学習)
- 第4次 現地での質問事項について
訪問マナーについて
- 第5次 校外学習(当日)
研修アフターワークにて個人新聞記事作成
- 第6次 事後のまとめ(個人新聞作成→→→→)



お世話になった、ガイドさんへ、
「Forever」という合唱を、海を感じながら心をこめて歌い、感謝の気持ちをプレゼントしました。

【まとめ】 個人新聞の取り組みで、自分だけでなく、仲間たちが感じたこともしっかり読み取り、「自分たちがこ

(生徒個人新聞あとがきより)新聞の題名に「希望」とつけた。その理由は、どんなに辛くて生きる希望すらなくしてしましそうな時、全員で協力し、未来へ進めば、必ず希望はあるということを田老で学んだ。僕もどんなに辛いことがあっても希望はあると信じて頑張ろうと、あきらめないと決意した!

れから何をしなければならないのか。」に答えていこうとする姿勢を育成することができた。また、実際に津波を体験した方から震災当時の様子をお聞きしたことで、改めて津波の恐ろしさ、凄さを感じる事ができた。そして、生徒一人一人の防災意識を少しでも高めることができ、とても有意義な活動であった。

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 ⑯【学校・家庭・地域での日頃の備え】避難場所や避難経路の確認。非常時の持ち出し品、家具の安全対策の確認。	総合的な学習の時間 (3学年)

【題材】

「地域との交流（震災学習）を通して自分自身の生き方を見つめ、まとめたことを発信する」

【対象】

一戸中学校3学年（男子39名 女子41名 計80名）

【実践の概要・詳細】

- (1) 事前学習 : オリエンテーション（震災学習の意義、内容、津波映像）
: グループ毎のテーマ、質問内容等
- (2) 震災学習 : 研修①：震災学習列車（三陸鉄道北リアス線）
(9月10日) 三陸鉄道社員による「震災語り部」～3・11あの日三鉄は～
: 研修②：田野畑村での被災地見学と津波体験語り部



【研修から】

- ・今の日本に必要なこと・・・子ども達の災害に対応する能力。だから風化させてはいけない。
- ・津波で、地区がバラバラになってしまった。もう前には戻らない。みんな一緒に生活は無理。
- ・反省点は防災意識の低下。自分の命は自分で守ること。訓練にも真剣に取り組んでほしい。



(3) 事後学習

- : グループ毎にまとめ（テーマを決め、レポート作成）
- : プロジェクトチームによるパワーポイント作成、文化祭発表



『私たちの避難経路、防災対策』について

- ・一戸町の避難所は27ヵ所あり、この一戸中学校も避難所の1つ。
- ・地震への備えとして、①家具の移動・転倒防止対策をする ②ガラスの飛散対策をする（室内でも靴）③高いところに割れ物を置かないようにする ④夜間地震を想定して、懐中電灯、ラジオを用意する などがある。
- ・避難場所や避難経路の確認などを、家族でしておく。

今回の学習で学んだこと・感じたこと（生徒感想）

- ・助け合うことの大切さと、どんなに辛くてもくじけないこと。
- ・震災の教訓を忘れず、他の地方・次の世代にも語り継ぎ、自分たちの出来ることから防災、減災に取り組んでいきたい。
- ・震災学習によって、「命こそが一番である」ということを感じた。僕たちは、このことを後世に伝えていきたい。
- ・災害から命を守るためには、普段から防災意識を高めておくことの大切さがわかった。
- ・日本には、やさしい人たちがたくさんいるなど思いました。困っている人がいたら、僕も積極的に助けたい。

【まとめ】昨年度までは、生徒会活動として廃品回収で換金したお金を野田中学校へ募金のみ行っていた。今年度は実際に被災地に足を運び、様子を目の当たりにしたことで生徒達の多くは復興への道のりや希望の光を感じとれた。その思いをもとにレポートにまとめ、自分たちの未来に向け、もっと「かかわる」ことや「ささえる」「伝える」といったキーワードも多く出された。今回の経験を今後の防災教育、復興教育に活かし続けると共に、もっと地域を大切に、つながっていける人材づくりに広げていきたい。今後の未来を担う生徒たちにとって、とても有意義な学習になった。